# 「インプラント治療における自家ブロック骨移植とGuided Bone Regenerationの骨造成量の変化と比較 」に対するご協力のお願い

研究責任者　宮下 英高
研究機関名　慶應義塾大学医学部
（所属）　歯科･口腔外科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

**本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「８ お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。**

## １　対象となる方

西暦 2015 年 4 月 1 日から 2025 年 5 月 30 日までの間に慶應義塾大学病院　歯科・口腔外科あるいは井原歯科クリニックを受診し､インプラント治療における自家ブロック骨移植あるいはGuided Bone Regeneration を受けた患者さんが対象となります。また、20 歳未満の患者さんは対象となりません。

## ２　研究課題名

承認番号　20251092

研究課題名　インプラント治療における自家ブロック骨移植とGuided Bone Regenerationの骨造成量と変化の比較

## ３　研究組織

| 研究代表機関 | 研究代表者 |
|---|---|
| 慶應義塾大学医学部　歯科・口腔外科学教室 | 専任講師　宮下　英高 |

| 共同研究機関 | 研究責任者 |
|---|---|
| 井原歯科クリニック | 院長　井原　雄一郎 |

４　本研究の目的、方法

インプラント治療は一般的に普及し、多くの患者さんが恩恵を受けています。インプラント治療に伴う骨欠損に日常的に遭遇し、骨造成が必要となります。その場合、自家ブロック骨を用いた方法や遮蔽膜を応用した Guided Bone Regeneration(以下、GBR)を応用します。GBR は人工材料を用いるため、自家ブロック骨移植と比較して一般的に侵襲が少ないと言われていますが、術後吸収が顕著に表れることがあります。未だに、どちらの方法が良いか否かは議論され、結論はでていません。したがって、自家ブロック骨とGBRを比較することで骨造成における術式選択の指標や基準となる研究と考えています。

インプラント治療における骨造成の術式選択の指標となる研究が実施できることで、骨造成においてコンセンサスの得られた術式選択がなされ、術者個人の意見や、技量によって術式選択されることがなくなり、多くの患者さんが適切な骨造成を受けることが可能になります。

なお、本研究は、慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室を主たる研究機関とする多施設共同研究です。本学では、自機関の既存試料と共同研究機関から受領した加工された情報(個人を識別する手段なし)を用いて、データ解析を実施いたします。

５　協力をお願いする内容

インプラント治療における骨造成に関する診療記録、手術記録、手術前後で撮影した CT 画像およびパノラマエックス線写真

６　本研究の実施期間

研究実施許可日～2028 年 5 月 30 日

７　外部への試料・情報の提供

該当しない

８　お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。また本研究の対象となる方またはその代理人(ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、情報の利用や他の研究機関への提供の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

慶應義塾大学病院 歯科･口腔外科学教室 宮下 英高

連絡先
慶應義塾大学医学部 歯科･口腔外科学教室

〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

電話番号 03-3357-1593

以上